

ちば経済フラッシュ

「ちば経済フラッシュ」は3、6、9、12月号に掲載します

千葉県経済の動き

■概況

昨年10～12月の県内景気は、足踏み状態となつた。個人消費は、政策効果の反動から、自動車と薄型テレビの販売が大幅に落ち込んだ。百貨店ではバーゲンセールは盛り上がったが、それ以外が振るわないなど、消費回復の手ごたえに自信が持てない状況が続いた。製造業の業況は、一部に円高・原材料価格高騰や政策効果剥落等の影響もあるが、アジア・IT関連を中心に海外受注が好調なうえ、合理化努力等が奏功し、全体として回復基調は維持。しかし雇用環境は依然厳しい。

先行きについては、中国経済が好調で、米国経済にも改善の兆しが見られ、年末・年始にかけて、円高が一服しているため、いずれ足踏みを脱すると期待しているものの、為替、資源価格等気がかりな要因もあるため、このまま一本調子で回復するとは思えないとの慎重な見方が多い。

千葉経済センターの「千葉県企業経営動向調査」(2011年1月実施)によると、昨年10～12月期の業況判断BSI(全産業)は▲1・9(前回比+2・3の改善)と2期ぶりに改善した。内訳を見ても、製造業の中小企業を除き改善した。個人消費は、政策効果の一巡による自動車販売台数の大幅減少(10月より3か月連続で前年同月比▲20%以上減少)や、12月入り後家電量販店で来店客数が半減するなど反動の落ち込みが大きかつた。もつとも10～11月にかけて、百貨店で秋・冬物衣料の販売好調や、千葉ロッテマリーンズの優勝セール開催、家電工コポイント半減に伴う駆け込み需要など、イベント・セール等では盛り上がりも見られた。こうした傾向は初売りにも続いている。

県内新設住宅着工戸数(10年9～11月期)は民間住宅投資が増え、前年同期比+19・1%増加した。特に分譲住宅が同+99・6%と大幅に増加し、7か月連続で前年を上回った。

もつとも、水準的にはビーカー(1972年)の4割程度の低水準にとどまり、08年比でも3割程度下回っている。

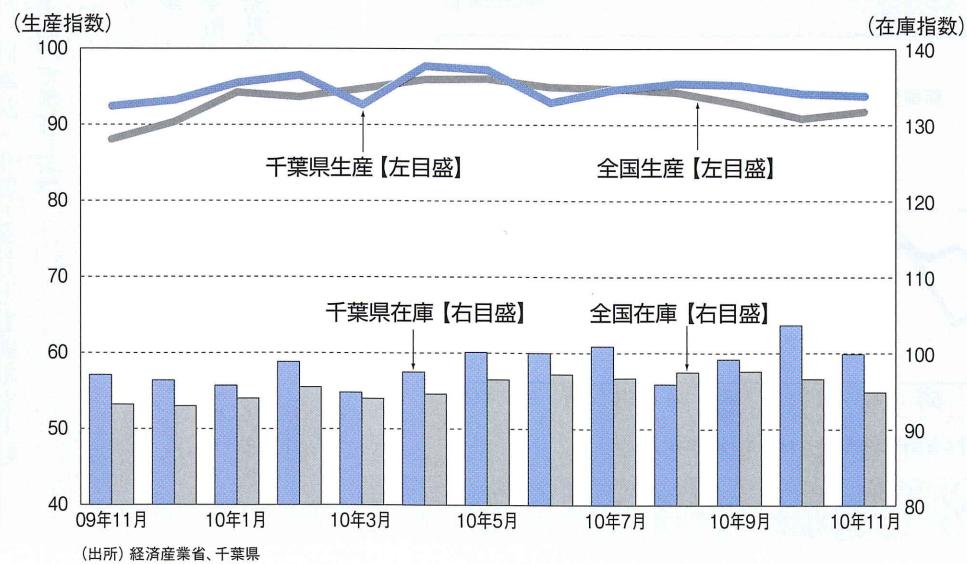
千葉県鉱工業生産指数(季調値)は、09年3月の75・1を底に回復基調にあるが、10年8月～95・5～9月～95・3～10月～94・2とその動きはやや弱まっている(ただ水準的には全国の指標を3か月連続して上回っている)。

10年度設備投資計画額(全産業ベース、11年1月調査)は09年度実績比+6・6%の増加となつた。製造業では同▲15・7%減、非製造業では、大手テーマパークでアトラクション新設に伴う大型投資もあり同+16・3%の増加となつた。

千葉県の11月の有効求人倍率(季調値)は、前月比0・01ポイント改善し0・48倍となつたが、厳しい状況に変わりはない。

(井上)

■鉱工業生産・在庫指数(季節調整済、千葉県2005年=100、全国2005年=100)



■消費関連

個人消費は、政策効果の一巡による自動車販売台数の大幅減少（10月より3か月連続で前年同月比▲20%以上減少）や、12月入り後家電量販店で来店客数が半減するなど反動の落ち込みが大きかった。もつとも10～11月にかけて、百貨店で秋・冬物衣料の販売好調や、千葉ロッテマリーンズの優勝セール開催、家電工コポイント半減に伴う駆け込み需要など、イベント・セール等では盛り上がりも見られた。こうした傾向は初売りにも出ている。

先行きについても、最悪期は脱したが、厳しい雇用環境が続いており、油断できないとの慎重な見方が多い。

10年10～12月期の消費関連業種の業況判断BSIは、ホテル・旅館は前回比改善したが、小売とサービスは悪化した。

県内都市部のホテルの10年10～12月の客室稼働率は、ビジネス客の増加、東京ディズニーリゾートの強い集客力などにより前年同期を上回ったホテルが多い。尖閣問題発生以降、中国人観光客は落ち込んだが、12月入り後は徐々に戻りつつある。またクリスマスから年末・年始は曜日構成に恵まれ、パーティ、宴会の受け付けも好調なホテルが見られた。1～2月は閑散期にあたり、客室稼働率は低下する見通し。

最近の主な業種別の動向は次のとおり。

●百貨店（主要7か店）

県内百貨店の10年10～12月期の売り上げは前年同期比▲0・04%減少した。月別では、10月…前年同月比+3・1%→11月…同+1・2%→12月…同▲3・1%と推移した。10月の前年比増は32か月ぶり。

10月下旬からの冷え込みによりコートなど冬物衣料の販売が伸びたほか、千葉ロッテマリーンズ優勝セールの底上げで、売り上げを伸ばした。一方、歳末商戦の売り上げは、ロッテ優勝セールの反動もあり、前年を下回った。

部門別では、食料品は消費者の外食からのシフト継続や、食品に対する「安心」「安全」への意識の高まりなどから、底堅く推移しているが、衣料品の売れ行きは低調。

先行きについては、優勝セール期間中は盛り上がりを見せたものの、継続しないことや、消費者の低価格志向が依然根強いことなどから、消費回復の手ごたえには自信が持てず、今後のことは、はつきり言つてよくわからないとしている。

●自動車販売

10年10～12月期の県内乗用車新車登録台数（2万4706台）は、9月7日のエコカー補助金打ち切りに伴う受注減により、前年同期比▲26・2%減少した。リーマン・ショックにより販売が冷え込んだ08年（2万8584台）

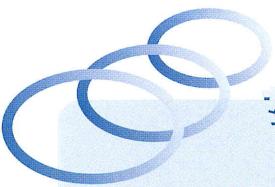
比でも▲13・6%の減少。月別では、10月…前年同月比▲24・1%→11月…同▲29・3%→12月…同▲24・9%と各月とも前年を大幅に下回って推移した。

こうした中、県内大手ディーラーでは、「エコカー補助金終了に伴う反動減はやむをえないが、これほどの落ち込みは想定外」として、例年販売台数を伸ばす2～3月についても、販売見通しが立てられないとの声が聞かれる。

（古川）



(出所) ちばぎん総合研究所、千葉トヨタ自動車、全軽自協



ちば経済フランシス

■住宅・建設

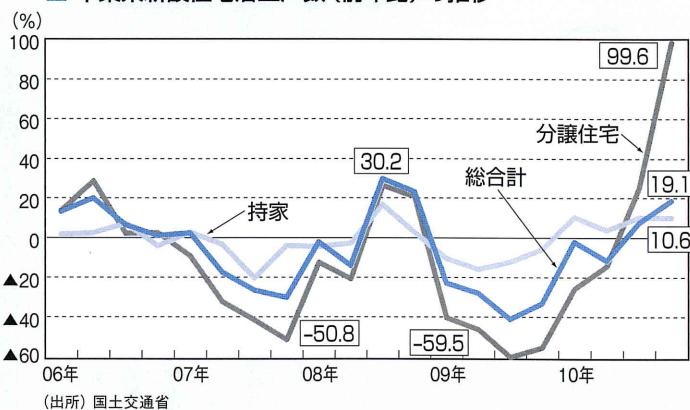
県内の10年9～11月の新設住宅着工戸数は、前年同期比+19・1%増加した（もつとも09年は4万2526戸〈08年比▲32・2%〉）と1967年以来、42年ぶりの低水準であつたことには留意の要）。分譲住宅が同+99・6%と大幅に増加しているが、これは分譲マンション需要6・2倍に増えたことがある。千葉県内の各地域では、近東地区（市川、浦安、船橋、津田沼）で都内へのアクセスが容易な駅近の好立地物件は人気があるが、適した出物が少ない。出物があれば開発可能で今なら販売にも自信があるとしている。また、その他地域では、稲毛、千葉、松戸、柏の駅近物件も人気高く、建設業者やデイベロッパーも積極的に仕入れの動きを見せ始めている。

10～12月期の県内における公共工事請負額は、県全体で前年同期比+6・3%

県内の10年9～11月の新設住宅着工戸数は、前年同期比+19・1%増加した（もつとも09年は4万2526戸〈08年比▲32・2%〉）と1967年以来、42年ぶりの低水準であつたことには留意の要）。分譲住宅が同+99・6%と大幅に増加しているが、これは分譲マンション需要6・2倍に増えたことがある。千葉県内の各地域では、近東地区（市川、浦安、船橋、津田沼）で都内へのアクセスが容易な駅近の好立地物件は人気があるが、適した出物が少ない。出物があれば開発可能で今なら販売にも自信があるとしている。また、その他地域では、稲毛、千葉、松戸、柏の駅近物件も人気高く、建設業者やデイベロッパーも積極的に仕入れの動きを見せ始めている。

千葉県内の各地域では、近東地区（市川、浦安、船橋、津田沼）で都内へのアクセスが容易な駅近の好立地物件は人気があるが、適した出物が少ない。出物があれば開発可能で今なら販売にも自信があるとしている。また、その他地域では、稲毛、千葉、松戸、柏の駅近物件も人気高く、建設業者やデイベロッパーも積極的に仕入れの動きを見せ始めている。

■千葉県新設住宅着工戸数（前年比）の推移



増と、3四半期ぶりに増加に転じた。国（同+5・6%増）、独立行政法人（同2・7倍）、市町村（同+10・5%）の工事請負額が増加したことによるもの。建設業者の中では、学校や病院、特別養護老人介護施設の建設など、少しずつではあるが、公共工事案件も動きが出てきているとの声が聞かれる。

（観音寺）

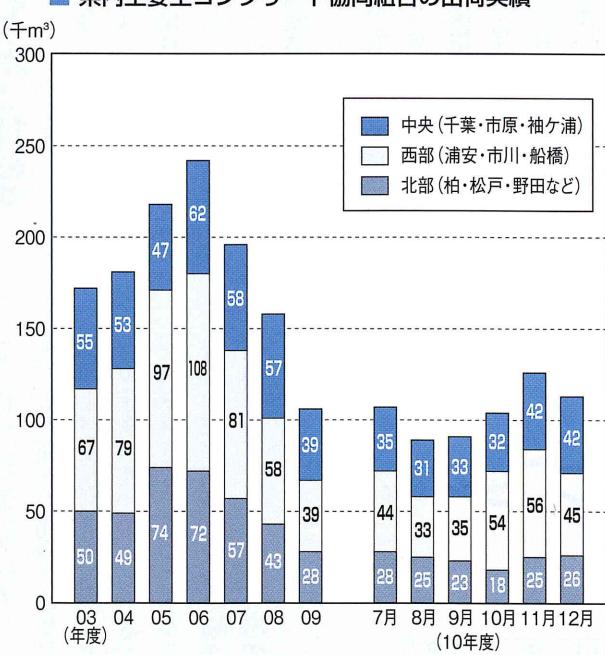
■建材

県内の生コンクリート主要協同組合（北部・西部・中央）の10年10～12月期の出荷量は、西部地区での大幅な需要回復もあり、前年同期比+18・7%の増加となつた。出荷量が増加したのは、07年1～3月期以来、15四半期ぶり。都心におけるマンション需要回復の効果が市川市や浦安市など都内に隣接した地域に波及し、また学校や介護関連施設などの公共事

業の案件が出始めたことも出荷量の増加につながっている。来年度は3協組とも目標出荷量を引き上げて設定する予定であり、生コンクリート業界では、ようやく最悪期を脱し、少しずつだが明るい兆しが見え始めたとの声が聞かれる。山砂製造・運搬業では、羽田空港拡張工事に続く大型工事はなく、10年10～12月期の出荷量は前年同期比▲3割の減少となり、山砂の需要自体の縮小傾向が続いている。

（観音寺）

■県内主要生コンクリート協同組合の出荷実績



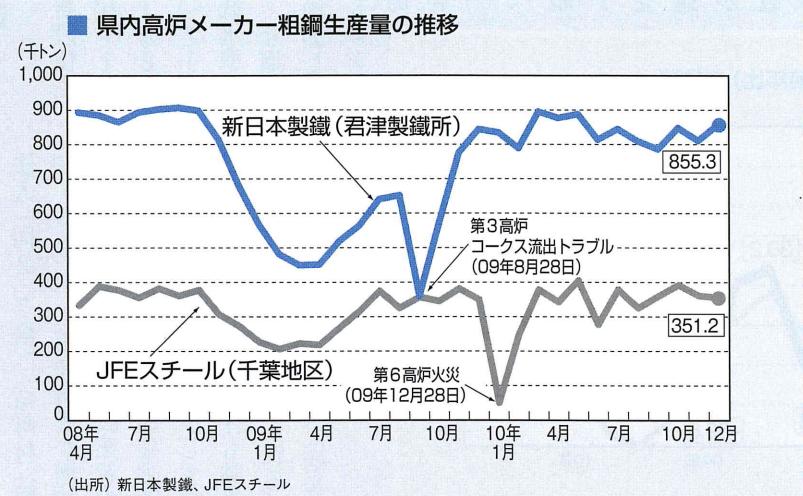
■鉄鋼

10年10～12月期の県内高炉メーカー2社（新日本製鐵、JFEスチール）の粗鋼生産量は、アジア諸国との経済成長に牽引された結果、360・5万t、前年同期比+11・0%の増加となつた。

資源価格（11年1～3月積み価

格）は、鉄鉱石、石炭とともに10～12月比で約8%値上がりすることを決定しており、高炉メーカーは、収益確保のため、再び需要家への販売価格の引き上げに苦慮している。

国内の鉄鋼業界は、需要の伸び悩み、資源（鉄鉱石、石炭）のインフレ、中国や韓国など新興国企業との競争、厳しい環境対策の必要性と、四重苦の状態になり、国内における経営環境は非常に厳しい。一方、世界の粗鋼生産は中国を中心に今後の増加が期待されるた



め、高品質な製品を中心輸出比率を高めることで、生産量と収益を確保している。従来国内高炉の補修などへ充當していた資金を、海外向けの投資へ振り向けることで、アジアだけでなく、世界中に資源供給、加工、流通、販売できる拠点を構築し、グローバル競争を戦っていくことが必要だ、としている。（観音寺）

■石油・化学

石油製品の原料となる国産ナフサの価格は7～9月4万2700円／kl、10月4万4000円／klと推移し、10～12月期は4万5000円／kl強となる見通し。WTI原油価格は80ドル／バレル前後で安定している。

県内大手企業の工チレ

ンプラント稼働率は、10月中は中国需要の低迷からやや落ち込んでいたが、11月以降は中国需要の回復に伴いフル稼働状態が続いている。一方

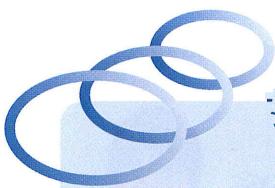
で、最近では投機的な理由からナフサ価格が高騰しているが、原料価格高騰分を販売価格に転嫁できていないため、十分な利益を確保できない企業が多い。これまでにはナフサ価格の上昇局面でも市場価格の引き合いが強いため、製品価格を見直す先はほとんどなかつた。しかし、ナフサ価格が今後も投機的な

理由から、しばらくは上昇を続けると見てる企業は多く、5万円／klを超えた場合には製品価格の値上げを検討するとの声もある。工チレンプラントも、稼働にかかる変動費の回収が困難になった場合には稼働率を下げる可能性も出てこようとしている。（森）

価格が今後も投機的な

WTI原油価格の推移・国産ナフサ価格の推移





ちば経済フラッショ

県内食料品メーカーの10年10～12月期の収益BSIは、▲15・2と前回比+0・9改善した。10年8月に、干ばつ被害を受けたロシアの穀物輸出禁止措置や、国際投資ファンドによる穀物の商品市場への投機などにより、小麦、大豆、菜種、トウモロコシなどの国際穀物価格は高騰し、12月入り後も高値をついている。原料となる穀物を輸入している食品メーカーは、原料価格の高騰分をなかなか国内販売価格に転嫁できず、厳しい収益状況が続いている。

食用油業界では、中国をはじめとする新興国の食用油の需要が高まる中、原料価格の高騰を受けて、11年1月に大手メーカーが食用油の値上げに踏み切った。他の大手・中堅メーカーも追随する動きが出てきており、収益環境の改善を見込んでいる。

また製粉業界でも、4月頃をめどに小麦粉の国内販売価格を1割程度値上げする動きがあるが、大口需要先である外食産業や製パン業界などへの影響は大きいと思われる。

先行きについては、11年1～3月期の収益BSIでは▲7・8（実績比+7・4）と、値上げを織り込み改善するとしている先が多い。

（井上）

県内食料品メーカーの10年10～12月期の収益BSIは、▲15・2と前回比+0・9改善した。10年8月に、干ばつ被害を受けたロシアの穀物輸出禁止措置や、国際投資ファンドによる穀物の商品市場への投機などにより、小麦、大豆、菜種、トウモロコシなどの国際穀物価格は高騰し、12月入り後も高値をついている。原料となる穀物を輸入している食品メーカーは、原料価格の高騰分をなかなか国内販売価格に転嫁できず、厳しい収益状況が続いている。

食用油業界では、中国をはじめとする新興国の食用油の需要が高まる中、原料価格の高騰を受けて、11年1月に大手メーカーが食用油の値上げに踏み切った。他の大手・中堅メーカーも追随する動きが出てきており、収益環境の改善を見込んでいる。

また製粉業界でも、4月頃をめどに小麦粉の国内販売価格を1割程度値上げする動きがあるが、大口需要先である外食産業や製パン業界などへの影響は大きいと思われる。

先行きについては、11年1～3月期の収益BSIでは▲7・8（実績比+7・4）と、値上げを織り込み改善す

■ 食料品

■ 漁業

■ 農業

銚子漁港の10年10～12月期の水揚げ状況を見ると、数量は8万637t（前年同期比▲24・6%）と前年同期を大幅に下回ったが、金額は101・8億円（同+15・7%）と前年を上回り、単価は上昇した（09年10～12月期：82円/kg→10年10～12月期：126円/kg）。

これは、サバ（数量4万8697t、同+54・0%）、カツオ（マグロ（数量4711t、同+694・8%）、アジ（数量2334t、同+84・8%）など豊漁だったものの、8月まで水揚げがなかつたサンマが、10～12月期の水揚げも1万3635tと大きく減少（同▲77・4%）したためである。ただ、品薄のため単価は100円/kgと前年同期の倍の値となつた。

また今年は秋口に入つてもなかなか海水温が下がらず、富津市内では養殖のり芽の生育状況をやや気にしていたが、の

りの収穫シーズンである11月に入り（～4月まで）良質なりが生育し、例年より10日ほど遅れて県産のりの初競りが富津市の県漁連のり共販事務所で始まった。

今年の最高値は、初競りご祝儀も含み、新富津漁協の黒特等級に1万1000円（100枚単位）の値がつき落札。出荷金額は62・3億円と大幅に増加した（同+20・1%）。

なかでも、10～11月のネギ、キャベツ、ニンジン、トマトの出荷数量は前年同期比▲30%以上の大幅な品薄となり、その間のキャベツの平均単価は前年同期の約3倍、ダイコン、トマトは約2倍となった。11月以降気候が安定したため、多くの品目で生育が安定し出荷数量は前年並みに戻りつつあるが、年末の市場価格は、品薄の中、年末年始の食材需要もあって前年を上回った。

県内の花卉栽培状況は、南房総市の菜の花が9月下旬の長雨の影響を受けやや生育が遅れていたが現在は順調。鴨川市のバラや、館山市のストック、南房総市のキンギョソウも生育は順調。

また、12月に農林水産省が公表した千葉県の10年産水稻の収穫量は、33万800tと前年比+1・9%増え、作況指数も102（同全国98）と良好であった。もっとも、米価は11月の生産者価格（うち玄米60kg）で1万1610円と前年同月比▲11・4%安く、米生産者の収入減が見込まれている。

（井上）

